

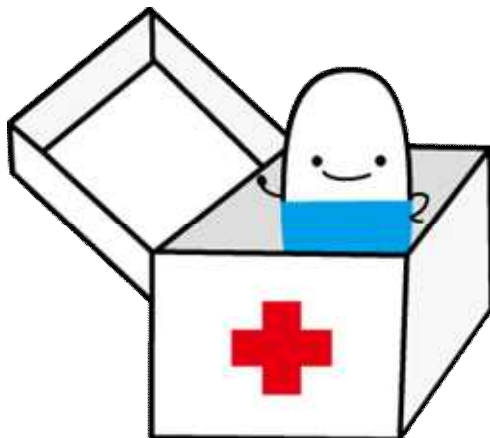
2010年4月



薬の保管方法

病院や薬局でもらった薬をどのように保管していますか？薬はとてもデリケートなものです。保管方法が悪いと、せっかくの薬の成分が分解し、効き目がなくなることがあります。

知っているようで知らない薬の保管方法について確認してみましよう。



薬の保管の注意点

光・温度・湿気を避けて保管する

薬は直射日光のような強い光を受けたり、温度が高い状態では、分解され変質しやすくなります。また、湿気が多い場所では、カビが生えたり、水分により変質することもあります。特に水剤や軟膏は細菌が繁殖しやすいので注意が必要です。変質により、効果がなくなるだけでなく、有害物質に変質する可能性もあります。薬によっては保管温度が決められているものもあります。冷蔵保存（4℃以下）、冷所保存（15℃以下）とあるものは指示通りに保管しましょう。特に指示のないものは涼しいお部屋で乾燥剤を入れた缶などに保管しましょう。

子どもの手の届かないところに置く

子どもが誤って飲んでしまわないように、子どもの手の届かない所に保管しましょう。



古くなった薬は処分する

以下のような場合は、薬が変質していることが考えられますので、使用を避けてください。

- ・錠剤やくapsulationの色が変わっている。表面がざらざらしている。亀裂が入っている。臭いが変わっている。
- ・散剤の色が変わっている。固まっている。臭いが変わっている。
- ・透明だった液剤に沈殿があり、よく振っても溶けない。
- ・軟膏やクリームなどの色が変わっている。油が浮いている。

他の容器への移し替えはしない

他の容器に移してしまうと、内容や使用方法がわからなくなり、飲み間違いのもとになってしまいます。移し替えた本人以外が誤って飲んでしまう場合もあります。

保管方法

錠剤・カプセル・散剤...湿気を防ぐためフタつきの
の缶や薬箱に乾燥剤を入
れて保管しましょう。



液剤（シロップ等）...冷蔵庫に保管してください。ただし、一部
室温保存の薬品もありますので、指示に従
って保管してください。

点眼薬・点耳薬...一般的には室温保存。一部、冷蔵保存や遮光保
存のものもあります。一度開封したものは、1カ
月以内に使用し、それを過ぎたものは処分しまし
ょう。



軟膏・クリーム...基本的には室温保存。医師や薬剤師
の指示がある場合にはそれに従っ
てください。



坐薬...通常は冷蔵保存。一部、室温保存が可能なものもあります。
開封後すぐに使用し、一度溶けてしまったものは使用しな
いよいうにしましょう。

注射薬...凍結を避け冷蔵庫で保管。ただし、使用中
のものは、結露を避けるため冷蔵庫には入れ
ずに、直射日光を避けた涼しいお部屋で保存
してください。



薬には使用期限があります。家の薬箱の中の薬は定期的に使用期限を確認して、古いものは処分するようにしましょう。

病院や薬局で処方された薬は、その時の症状に合わせて出されたものです。同じような症状であっても違う病気のこともあります。以前の薬が残っているからといって、自己判断で使用せずに受診するようにしましょう。

その他、お薬の保管方法についてお困りのことがございましたら、お気軽に薬剤師までご相談ください。



(岩手県薬剤師会 / 処方せん豆知識 / All About 参照)



オーロラ薬局

TEL 019-635-1233

FAX 019-635-4555

オーロラ薬局 沼宮内店

TEL 0195-61-3883

FAX 0195-62-6868